

4. リニア中央新幹線に関連する基盤整備に対する支援について

【国土交通省】

《提案・要望事項》

リニア中央新幹線を国家プロジェクトに位置付け、一般国道153号などのアクセス道路、リニア駅の関連施設等、リニア中央新幹線に係る基盤整備について、国による整備や地方負担に対する財政支援を行うこと。

《提案・要望の考え方》

【現況、課題等】

リニア中央新幹線は、JR東海の自己資金で建設されるため、国の財政負担は生じない。

しかし、我が国の交通の大動脈の建設という国家的プロジェクトであるにも関わらず、アクセス道路、駅関連施設等、リニアに係る基盤整備は、主として地方が行うことになる。地方に大きな財政負担が生じることから、国に対して財政支援を要請するとともに、一般国道153号の権限代行等を求めるものである。

リニア中央新幹線開業に向けての流れ

平成23年5月	国土交通大臣、JR東海を建設・営業主体に指名 同社に建設の指示
平成26年中	国土交通大臣による工事実施計画の認可
平成27年～	リニア駅周辺整備・リニア関連の道路整備
平成39年	東京一名古屋間の開業

【長野県内の取組】

○リニア中央新幹線に関連する基盤整備に関する取組

- 平成25年7月 「リニアを活かした『地域づくり勉強会』」の設置。
- 平成25年8月 「リニア中央新幹線整備を地域振興に活かす伊那谷自治体会議」の設置。
- 平成26年3月 「長野県リニア活用基本構想」を策定。基盤整備の今後の方針・取組について記載。
- 平成26年4月 県に「長野県リニア中央新幹線地域振興推進本部」を設置し、リニア整備に関する全庁的な取組を開始。
- 平成26年5月 飯田市が「リニア駅周辺整備基本構想検討会議」を設置し、駅周辺整備の検討を開始。

○一般国道153号に関する国への要望活動

- 平成25年3月 一般国道153号の指定区間編入等に関する国土交通大臣要望
- 平成25年6月 一般国道153号の早期整備並びに指定区間編入等に関する国土交通大臣要望

(県所管部局) 企画振興部、建設部

【参考】

リニア中央新幹線について

1 リニア中央新幹線計画の概要

区分	内容
建設・営業主	J R 東海
開業時期	東京－名古屋間 平成 39 年（2027 年） 名古屋－大阪間 平成 57 年（2045 年）
最高設計速度	505 km/h
費用概算額	9.03 兆円（東京－名古屋間：5.43 兆円）
駅位置	品川駅－相模原市－甲府市－飯田市－中津川市－名古屋駅
所要時間	東京－名古屋間 40 分（速達型） 東京－大阪間 67 分（ 〃 ）
	長野県駅－東京間 45 分（各駅停車型） 長野県駅－名古屋間 27 分（ 〃 ）

（注）「駅位置」…名古屋以西の駅位置については、今後決定される。
「所要時間」…各駅停車型の所要時間は、長野県による推計。

2 リニア中央新幹線の県内ルート



3 J R 東海と自治体の役割分担について

項目		J R 東海	自治体
新幹線軌道の建設		○	
中間駅の建設	ホーム、入出場口、改札設備、旅客トイレ等	○	
	総合案内所、自由通路等 （自治体が必要と判断した場合）		○
駅周辺施設の整備（駅前広場、バス・タクシー乗り場等）			○
アクセス道路の整備			○